

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4570
25年8月12日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

8. 8平和を考える 長崎集会を開催

おはようございます。

8月8日、男女共同参画推進センター(アマランス) 研修室1で「第26回8・8平和を考える長崎集会」を開催しました。

集会は、主催者である山田支部長の挨拶でスタートしました。その後の来賓挨拶では全国労働組合連絡協議会の渡邊洋議長と、郵政ユニオン日巻直映中央本部委員長が挨拶を行い、「長崎を最後の被爆地にするために、核兵器廃絶を訴え、恒久平和の実現に向けて組合を挙げて活動していく。」と力説されました。

続いて新社会党中央執行委員の荒木賢三氏を講師に迎え、「核兵器は遺伝子(DNA)を標的とする非人道的兵器！」と題

して講演会が行われました。参加者の報告を紹介します。

今回の講演では、被爆者医療の第一人者で被爆者でもある朝長万佐男氏の研究を基に、原爆の放射線が健康にどう影響を与えるのか、細胞・DNAが破壊されるかについて解説がありました。



朝長氏は2歳で被爆したため当時の記憶はないが、1940年代後半頃から長崎市内で白血病の患者が増えていることに気づき、「もしかしたら自分も…」と思ったことが被爆の影響を研究する原点だと言います。
ヒトの体には、日夜成熟した細胞を作り出す幹細胞があります。この幹

細胞だけが体内で70〜80年と長期間生き続けることが出来ず。

1945年に落とされた原爆の放射線でDNAが一瞬にして傷ついたと考えられ、被爆者の中で生き続けた幹細胞のDNAの傷が拡大し、やがて癌細胞になります。

この生涯持続性の原因発見が朝長氏の研究の最大の成果です。同時に、この科学的知見が、核兵器が幹細胞のDNAを破壊する非人道的兵器であることの証明でもあります。と講師の荒木氏は語りました。

私はこの講演を聞いて、被爆者は生涯にわたり生じる健康の悪化と闘って、授業で習ったように戦争が1945年で終わったとは思えません。核兵器は人間が持つことが許されない兵器であり、絶対に使ってはなりません。

核兵器をなくして、子どもたちが平和に安心して暮らせる世界になってほしいと強く願います。講演の後には、質疑応答を行い、理解を深めました。

講演終了後にピースサイクル到着報告があり、大阪・広島・北九州の仲間から平和活動の取り組みに関する報告がありました。

集会の最後は2025年8・8平和を考える長崎集会宣言を採択し、集会を終了しました。



今年で被爆80年を迎え、被爆者の数は少なくなっています。被爆者なき時代の始まりは、核戦争がいつ起こっても不思議ではない時代の始まりでもあるのです。
今回の集会のように学習を深め、行動を続けていくことが大切です。たくさんの方々が繋いでくれた命を、託された未来を、私たちも次の世代へ繋いでいかなければなりません。



最低賃金審議会に
意見書を送付

郵政ユニオン長崎中央郵便局支部は、8月5日に長崎地方最低賃金審議会に「長崎県最低賃金の改定決定に係る意見書」を提出しました。

8月13日に第2回長崎地方最低賃金審議会が開催され、意見陳述が行われます。今年も長崎支部はこの審議会で「最低賃金改定にかかる意見」を陳述する予定です。先日中央の最賃改定の目安が出されました。郵政最賃は「端数を切り上げた金額に20円加算する」ので、目安の64円を加えた1017円に4円上乗せを勝ち取れば時給が10円変わります。

物価高騰が実質賃金に追いつかない現状を変え、労働者が声を上げましょう。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎の
ホームページはこちら



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員、希望者全員、正社員化を。

ゆめが、均等待遇、なつこい差別ー。

ユニオンは労契法裁判に勝利するぞー!